

～令和6年度 シニア学部神岡校 開催レポート 第3号～

【山城からみた飛騨市周辺の戦国時代】

9月13日(金)に、神岡町公民館及び神岡町図書館にて戦国時代の飛騨地域を学ぶ講座を開催し、38名の方が参加しました。講師には、市文化振興課学芸員三好 清超氏と市図書館司書の松中 翔氏をお迎えしました。

山城用語についての詳細な解説や、戦国時代の江馬氏が遠くは北越や甲信地域、近くは飛騨地域の勢力の動静をみながらどのように領地を統べていたかについて山城の配置や機構などから解説があり、郷土の山城史跡について理解を深めることができました。

倒木被害調査をきっかけに始まった傘松城史跡の発掘調査。その調査で明らかになった防御構造物の配置から、敵対勢力の仮説を証明することができたということから、今後、他所の山城でも調査を進めていくなかで様々なことが判っていくことになるという、考古学の生のすがたについて触れることができました。

傘松城の国史跡指定が他所から遅れたことの原因、領地内で実際に戦があったか、山城に配置されていた人数、築城の使役は強制であったのか等の質問があり、調査が進んでいる部分と調査が進んでいない部分に分けて説明がありました。

また、神岡図書館での山城に関する常設展示では、実際に山城を巡った図書館司書からの説明により山城を身近に感じていただきつつ、近々の図書館マナーについても触れることができ、図書館利用のきっかけともなりました。

受講者からは「戦国時代の近郊の成り立ちが身近になった」「図書館司書から自らの体験(巡検)を語ってくださり、一生懸命さが伝わりました。一度巡ってみたいと思いました」「図書館でも展示があるの！」との感心の声がありました。

